



第1章：計画の概要

【計画策定の目的】

本市においては、平成30年2月に策定した「第2次宇都宮市学校教育推進計画」に基づき、学校教育における様々な施策を推進してきたが、学校教育を取り巻く社会情勢の変化や教育に係る国の動向に伴い、学校教育の一層の充実が求められていることから、現行計画を見直し、後期計画を策定する。

【計画の位置付け】

- ・「第6次宇都宮市総合計画」に基づく計画
・「宮っこ未来ビジョン」の考え方に基づく計画
・宇都宮市の教育振興基本計画として位置付けられる4計画のうち学校教育に係る分野別計画

【計画の対象】

宇都宮市立の小学校・中学校の学校教育活動全般（家庭・地域との連携・協力等の内容を含む）

【計画期間】

2027(令和9)年度までの10か年計画
2022(令和4)年度に見直しを実施

第2章：学校教育を取り巻く状況

1 学校教育を取り巻く社会情勢

グローバル社会の進展、情報社会・科学技術の進展、持続可能な社会づくりへの対応、選挙権年齢及び成年年齢の引き下げ、子供たちの多様化、教職員における長時間勤務、新型コロナウイルス感染症拡大の影響と新たな感染症や災害発生への備え等

2 国・県・市の教育政策の動向

- 第3期教育振興基本計画（平成30年6月）
○ 学校における働き方改革の推進（令和元年12月）
○ 新学習指導要領の全面实施（小学校令和2年度、中学校3年度）
○ GIGA スクール構想（令和2年度～）
○ 中央教育審議会答申
○ 教育進化のための改革ビジョン（令和4年2月）
○ こども基本法（令和5年4月）
○ 栃木県教育振興基本計画2025-とちぎ教育ビジョン-の策定（令和3年2月）
○ 第6次宇都宮市総合計画改定（令和3～4年度）

今後取り組むべきこと

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
○ カリキュラム・マネジメントの充実
○ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実
○ 小学校高学年の教科担任制の推進
○ デジタルトランスフォーメーションへの対応
○ 教育データ利活用の推進
○ GIGA スクール構想の推進
○ ICTを活用した効果的な学びの確立
○ SDGs達成に向けた脱炭素社会構築への取組
○ いじめ、不登校児童生徒、外国人児童生徒、ヤングケアラー、「性的マイノリティ」等に対する特別な配慮や支援
○ 学校における働き方改革の推進
○ 社会参画の機会の充実
○ 新しい時代の教育環境に必要な施設・設備の整備

第3章：本市の小・中学校の現状

1 「第2次宇都宮市学校教育推進計画前期計画」の評価

【基本目標①】 成長し続けるための基盤を培う

〔成果〕・児童生徒の学力が定着している状況が見られるなど、児童生徒の学力向上に向けた取組は、順調に行われている。
〔課題〕・児童生徒の体力向上に向けた運動機会の創出や、将来の夢や目標を持たせるための取組等に課題が見られる。

【基本目標②】 未来を生き抜く力を養う

〔成果〕・1人1台端末が配備され、学校の教育活動全体での活用が進むなど、児童生徒の情報活用能力の育成に向けた取組は順調に行われている。
〔課題〕・グローバル化が一層進行している状況もあり、英語力の向上や多様な文化に触れることができる機会の創出等に課題が見られる。

【基本目標③】 多様な児童生徒の状況に応じた指導・支援を行う

〔成果〕・学校生活適応支援アドバイザーによる学校訪問相談や教職員研修等を通して、学校組織の対応力強化と指導力向上が図られるなど、インクルーシブ教育システムの充実に向けた取組は順調に行われている。
〔課題〕・不登校児童生徒数が増加傾向にあり、不登校児童生徒の個々の状況に応じた指導・支援を充実する必要がある。

【基本目標④】 信頼される教職員を育て、学校のチーム力を高める

〔成果〕・教職員一人一人の授業力が向上している状況が見られるなど、教員の授業力を高めるための取組は、順調に行われている。
〔課題〕・学校における働き方改革を進めるための取組は順調に行われている。
〔課題〕・教職員の働き方改革を今後とも進めるため、業務の効率化や勤務時間の適正化を一層推進する必要がある。

【基本目標⑤】 地域とともにある学校づくりを進める

〔成果〕・各地域学校園において、「小中一貫教育・地域学校園」制度に係る取組が工夫しながら行われるなど、地域とともにある学校づくりを進めるための取組は、順調に行われている。
〔課題〕・保護者及び地域住民等と連携し、地域とともにある学校づくりを推進する上で、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を一部受けた。また、幼児教育施設と小学校の教職員間でのカリキュラムの相互理解や接続等に課題が見られる。

【基本目標⑥】 新しい時代にふさわしい教育環境を整える

〔成果〕・1人1台端末や通信環境が整備され、学校のICT化に係る取組は順調に行われている。
〔課題〕・トイレ環境の改善などの教育環境の質的な向上は図られている。
〔課題〕・生活様式の変化や、安全性・快適性の向上、脱炭素社会の実現など、学校施設に対する社会的ニーズは多様化しており、こうした新しい時代にふさわしい教育環境を整えていく必要がある。

2 「小中一貫教育・地域学校園」制度の検証・見直し

制度の全市実施10年目である令和3年度に、現行制度の成果と課題についての検証を実施した。

【学力保障について】

小・中学校が連携して学力向上を目指す取組が定着し、義務教育修了段階において指導の成果が顕著であるとともに、特に教科等横断的教育活動において4・3・2の三期を生かした指導が効果的に行われた。

【学校生活適応について】

生活のきまり等の小・中学校が連携した指導により中1生徒の中学校生活への適応が図られたとともに、小・中学生の交流等により中学校進学への不安軽減が図られ、中1ギャップの解消に一定の成果が見られた。

【教職員の相互理解について】

乗り入れ授業により相互理解が図られ、「小中一貫の日」の会議における情報交換が計画的に実施された。

【地域の教育力の活用等について】

地域の教育力を生かした教育活動が推進され、小・中学生の社会性や地域への愛着が育まれた。

【本制度における組織を生かした取組について】

一人配置職員の連携が図られた。また、地域学校園の枠組みが各取組に生かされ、有効に機能した。

検証結果を踏まえ、次の三つを柱として制度見直しを実施した。

○ 「第2次宇都宮市学校教育推進計画」との関係整理

本制度を「第2次宇都宮市学校教育推進計画」の基盤として位置付け、一体化を図る旨を明確化するとともに、本制度で実施してきた各取組を推進計画の施策・事業として位置付ける。

○ 義務教育9年間の指導の系統性と学びのつながりの強化

4・3・2の三期に係る考え方や取組の一層の明確化とともに、教職員の相互理解による指導改善や、幼児教育と小学校教育の接続を推進する。

○ ICTの活用推進

小・中学生の交流活動や小・中学校の教員による合同授業研究会、「小中一貫の日」の会議等をオンラインにより効率的かつ効果的に実施することができるよう検討する。

第4章：本市における学校教育の課題等の整理

基本目標①について

- ・ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図るとともに、1人1台端末などのデジタル機器の効果的な活用や学習データの効果的な活用を探りながら、質の高い学びの実現を図る必要がある。
・ 小学校高学年における教科担任制の実施方法等について検討するなど、導入に向けた取組を推進する必要がある。
・ 体育・保健体育における指導を一層充実させるとともに、各種検定の実施や外遊びを奨励するなど、教育活動全体を通して児童生徒の運動機会を創出する必要がある。
・ 「宮・未来キャリア・パスポート」の更なる活用など、将来の夢や目標をもたせるための取組を推進する必要がある。

基本目標②について

- ・ 脱炭素社会や情報社会の一層の進展等に係るSDGs達成への貢献等、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の向上を図る必要がある。
・ GIGA スクール構想の実現に向け、教育活動全体で1人1台端末を有効に活用するとともに、自律した情報の使い手となるための教育を推進する必要がある。
・ デジタル機器を効果的に活用するなど、実施方法や内容を検討しながら、英語力の向上を図るとともに、多様な文化に触れることができる機会等を創出する必要がある。

基本目標③について

- ・ 学校、家庭はもとより、地域、関係機関が連携しながら、総合的な不登校対策の強化を図る必要がある。
・ 1人1台端末や学校以外の多様な教育機会の場を活用するなど、不登校児童生徒の状況に応じた支援を行う必要がある。
・ いじめや虐待、ヤングケアラーや「性的マイノリティ」等に適切に対応するとともに、特別な配慮を必要とする児童生徒や外国人児童生徒へのデジタル機器の効果的な活用など、児童生徒の様々な状況に応じた指導・支援を行う必要がある。

基本目標④について

- ・ デジタル機器を活用した業務の効率化や勤務時間の適正化など、学校における働き方改革を推進するとともに、教職員の資質・能力の向上を図る必要がある。

基本目標⑤について

- ・ 保護者及び地域住民から幅広く学校運営等に関する意見を聴取しながら、地域とともにある学校づくりを推進するとともに、小・中学生の交流活動や幼児教育施設と小学校の教職員同士の相互理解を深める取組を行うなど、各種機関の連携・接続に係る取組を推進する必要がある。

基本目標⑥について

- ・ 学校のデジタル化を進めることにより、GIGA スクール構想やデジタルトランスフォーメーションを推進するとともに、施設の老朽化対策に加え、快適性やバリアフリーなど多様化する社会的ニーズにも配慮した施設・設備の整備を図る必要がある。

第5章：本市におけるこれからの教育、第6章：計画の展開

基本理念

誰もが安心して学べ、活力にあふれる学校で、自信と志をもち、ともに支え合いながら未来を担う宮っ子を育みます。

【基本目標①】成長し続けるための基盤を培う

【目指す姿】
 (1) 児童生徒は、主体的に学習に取り組み、周りの人たちと協力したり、デジタル機器を効果的に活用したりすることを通して、確かな学力を身に付けています。
 (2) 児童生徒は、自己肯定感が高く、失敗や困難を乗り越えて挑戦し続けるたくましさをもっています。また、思いやりやルールを守る心を持ち、自他の生命や人権を尊重しています。
 (3) 児童生徒は、自ら考え行動し、心身ともに健康で安全な生活を送っています。
 (4) 児童生徒は、夢や目標をもち、自らの夢の実現に向けて努力しています。また、集団の中で自分のよさを発揮し、他と協働しながら集団や社会に貢献できるよう努力しています。

【基本目標②】未来を生き抜く力を養う

【目指す姿】
 (1) 児童生徒は、英語を使って外国人とコミュニケーションを図る力や多様な文化を理解し、共生しようとする態度を身に付けているとともに、郷土・宇都宮や日本の伝統・文化に愛情と誇りをもっています。
 (2) 児童生徒は、自律した情報の使い手になるために必要となる資質・能力を身に付けています。
 (3) 児童生徒は、少子高齢社会や人権、平和、環境等の現代的な諸課題に向き合い、解決を図ろうとする学習活動を通して、持続可能な社会の実現に向けて、主体的に参画しようとする態度を身に付けています。

【基本目標③】児童生徒の様々な状況に応じた指導・支援を行う

【目指す姿】
 (1) 学校は、特別な支援を必要とする児童生徒の可能性を最大限伸ばすよう、個に応じた支援の充実を図っています。
 (2) 学校は、いじめの根絶や不登校の未然防止に努めるなど、児童生徒が安心して過ごせる教育環境を整えるとともに、家庭や地域、関係機関と連携・協力しながら、児童生徒の個々の状況に応じた支援を行っています。
 (3) 学校は、外国人児童生徒等に対して、自立して生きる力の基盤を育むとともに、安心して生活できるよう支援しています。
 (4) 学校は、「性的マイノリティ」や家庭における虐待、貧困、ヤングケアラーなどに対し、関係機関と連携・協力しながら、多様な教育的ニーズがある児童生徒の状況に応じた支援を行っています。

【基本目標④】教職員がいまききと勤務できる環境を整え、信頼される教職員を育てる

【目指す姿】
 (1) 教職員は、自己研鑽に努め、高い指導力と専門性を身に付けるとともに、強い使命感や情熱をもって日々の指導を行い、児童生徒、保護者、地域の方々から頼られる存在となっています。
 (2) 学校は、多様な専門性を有する学校スタッフが効果的に活用し、校長のリーダーシップのもと、全ての教職員が力を発揮し、チームとして協力し合いながら指導にあたっています。
 (3) 学校は、デジタル機器を活用するなどしながら、業務の効率化を進めています。また、教職員は、児童生徒と向き合う時間を確保し、心身ともに健康な状態で職務を遂行しています。

【基本目標⑤】地域とともにある学校づくりを進める

【目指す姿】
 (1) 学校や地域学校園は、「小中一貫教育・地域学校園」制度等の本市独自の教育システムを有効に活用しながら、常に教育水準の向上に努めています。
 (2) 学校は、校長のリーダーシップのもと、全教職員が協働し、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開しています。また、保護者や地域の声を学校評価に生かし、学校経営の改善に努めています。
 (3) 学校は、家庭や地域、幼児教育施設や企業等と連携を深めながら、目標を共有し、よりよい児童生徒の育成に向けて取り組んでいます。

【基本目標⑥】新しい時代にふさわしい教育環境を整える

【目指す姿】
 (1) よりよい教育環境の確保を図りながら、生活様式の変化への対応やバリアフリー化の推進、脱炭素社会の実現など、多様化する社会的ニーズにも配慮された学校施設で、児童生徒をはじめ、利用者が安全・快適に過ごしています。
 (2) 1人1台端末の活用や校務のデジタル化の推進に向けた環境が整備されています。

基本施策	施策・事業	主な事業 (◆新規、◇拡充、GIGAスクールとの関連、園小中一貫・地域学校園との関連)	指標【現状→R9目標】
(1)確かな学力を育む教育の推進	①義務教育9年間の系統性を生かしたカリキュラムの充実 重②「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 ③教育データを活用した学習指導の推進	◇次期につながる効果的な指導方法等の研究実践 ・小中一貫教育カリキュラムの充実(園) ◆1人1台端末の効果的な活用 G ◇小学校高学年における教科担任制の推進(園) ◆教科等横断的な学習、探究的な学習の充実(「U-STEAM学習」の実施) ◆学習履歴等の教育データの蓄積等 G ◆学習内容定着度調査のCBT化の検討 G	●全国学力学習状況調査における中3生の正答率の全国平均との比較 (%) 【現状値：全国平均+1.0P →目標値：全国平均+1.3P】 ●「自分やみんなのためになることは、がんばってやろうとしている」と回答した中3生の割合 (%) 【91.8%⇒95.0%】
(2)豊かな心を育む教育の推進	重①「宮っ子心の教育」の推進による認め励ます教育やたくましさを涵養する教育などの充実 ②豊かな感性を育む機会の充実	◇心のたくましさの涵養を図る「宮っ子心の教育」の推進(園) ◆「コロナ・リカバリープラン」の実施 ・小中学生の交流活動(園) ・全校的な読書活動の推進 ◇「元気っ子健康体力チェック」の実施と活用(園) ◇「うつつのみや元気っ子チャレンジ特別版」(コロナ・リカバリープラン)の実施 ◆デジタル活用時の健康への配慮に関する教育の充実 G ◇心の健康に関する教育の充実 ◇給食の時間や教科等における食に関する指導の充実 ◇食文化の学習の推進 ◆「災害を想定した避難訓練」の実施	●新体力テストの総合評価における中3生の(A+B)-(D+E)率 (%) 【男：32.2%⇒40.0%】 【女：46.4%⇒50.0%】 ●「将来の夢や目標をもっている」と回答した中3生の割合 (%) 【75.8%⇒84.0%】
(3)健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	重①体力向上の推進 ②学校保健の推進 ③食育の推進 ④学校安全の推進	◆オンライン英会話教室の実施 G ・イングリッシュキャンプの実施 ◆異文化を理解するための学習活動の充実 ・「宇都宮学」の充実(園) ・「百人一首」に親しむ学習の実施(園) ◆授業内外での1人1台端末の日常的・効果的な活用の推進 G ◆VR,ARや3D都市モデル等の様々な先進技術を活用した学習活動の実施(「U-STEAM学習」の実施)G ◆「SDGs宮っ子まちづくりプロジェクト」の実施 ◆カリキュラム・マネジメントの充実 ・地域未来会議との連携 ・人権や平和に関する資料や事業の活用 ・「平和親善大使広島派遣事業」の推進 ◇環境に配慮した消費生活等、消費者教育の推進 ◆「学校版『もったいない運動』」の実施	●C E F R A1程度(英検3級程度)の英語力を有する中3生の割合 (%) 【41.3%⇒60.0%】 ●「パソコンを使って、相手に分かりやすく自分の考えや調べたことを伝えることができる」と回答した中3生の割合 (%) 【79.4%⇒85.0%】 ●「社会で問題になっていることについて、どうすればよいかを考えたことがある」と回答した中3生の割合 (%) 【73.9%⇒80.0%】
(4)将来への希望と協働する力を育む教育の推進	重①「宮・未来キャリア教育」の推進 ②社会に参画し、協働する力を育む教育の推進	◆「宮っ子『夢』教室」(コロナ・リカバリープラン)の実施 ・地域未来会議の実施 ・議会体験への参加	●「将来の夢や目標をもっている」と回答した中3生の割合 (%) 【75.8%⇒84.0%】
(1)グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	重①英語教育・国際理解教育の充実 ②郷土への愛情を育む学習の推進	◆オンライン英会話教室の実施 G ・イングリッシュキャンプの実施 ◆異文化を理解するための学習活動の充実 ・「宇都宮学」の充実(園) ・「百人一首」に親しむ学習の実施(園) ◆授業内外での1人1台端末の日常的・効果的な活用の推進 G ◆VR,ARや3D都市モデル等の様々な先進技術を活用した学習活動の実施(「U-STEAM学習」の実施)G	●C E F R A1程度(英検3級程度)の英語力を有する中3生の割合 (%) 【41.3%⇒60.0%】 ●「パソコンを使って、相手に分かりやすく自分の考えや調べたことを伝えることができる」と回答した中3生の割合 (%) 【79.4%⇒85.0%】
(2)情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	重①自律した情報の使い手を育む教育の充実 ②先進技術に触れる教育活動の推進	◆「SDGs宮っ子まちづくりプロジェクト」の実施 ◆カリキュラム・マネジメントの充実 ・地域未来会議との連携 ・人権や平和に関する資料や事業の活用 ・「平和親善大使広島派遣事業」の推進 ◇環境に配慮した消費生活等、消費者教育の推進 ◆「学校版『もったいない運動』」の実施	●「社会で問題になっていることについて、どうすればよいかを考えたことがある」と回答した中3生の割合 (%) 【73.9%⇒80.0%】
(3)持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	①地域を支える力を育む教育の推進 ②人がともに支え合う社会の担い手を育む教育の推進 ③身近な環境を守ろうとする態度を養う教育の推進	◆「SDGs宮っ子まちづくりプロジェクト」の実施 ◆カリキュラム・マネジメントの充実 ・地域未来会議との連携 ・人権や平和に関する資料や事業の活用 ・「平和親善大使広島派遣事業」の推進 ◇環境に配慮した消費生活等、消費者教育の推進 ◆「学校版『もったいない運動』」の実施	●「社会で問題になっていることについて、どうすればよいかを考えたことがある」と回答した中3生の割合 (%) 【73.9%⇒80.0%】
(1)インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	①学校の組織的対応力の強化と支援体制の充実 ②合理的配慮に係る早期からの連携強化 重③教育的ニーズに応じた教職員の指導力の向上	◆ICFを活用した校内支援体制の仕組みづくり ◆合理的配慮に関する関係機関との情報共有 G ◆障がいの特性に応じた個別最適な学びに向けた指導力の向上 G	●児童生徒の学習の困難さの改善・克服を目指して、デジタル機器を効果的に活用し、授業の改善を行っている教員の割合(%) 【73.2%⇒85.0%】
(2)いじめ・不登校対策の充実	①魅力にあふれ安心して過ごせる学校づくりの推進 ②いじめへの対応強化とネットトラブル等の未然防止 重③不登校児童生徒の個々の状況に応じた支援の充実	◇心身の健康の保持増進に係る各教科等の指導の充実 ◇SNS等を通じたトラブル未然防止のための出前講座の実施 ◆デジタル適応支援教室の設置 G ◆連絡手段や学習支援のツールとして1人1台端末の活用 G ・スクールソーシャルワーカーによる各関係機関との連携強化 ・児童生徒の日本語習得や学校生活適応の状況に応じた指導の充実	●不登校児童生徒のうち、「学びの機会」を保障し、将来の「社会的自立」に向けた支援につながった児童生徒の割合 (%) 【74.1%⇒100.0%】 ●小・中学校でのいじめ解消率(4月～12月に認知したもの) 【92.2%⇒100.0%】
(3)外国人児童生徒等への適応支援の充実	①外国人児童生徒等への指導の充実 ②多文化共生の理解促進 ③外国人児童生徒等の保護者への支援	◇国際理解を促進する講座等の周知 ◆1人1台端末を活用した通訳翻訳対応 G ・通訳者の派遣 ・各地域学校園児童生徒指導強化連絡会等の開催(園) ・教職員、児童生徒に対する理解促進 ・啓発資料の活用 ・関係機関との連携強化	●希望の進路に進んだ外国人生徒等の割合 (%) 【100.0%⇒100.0%】 ●「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るく生き生きとした雰囲気である」と回答した保護者、児童生徒の割合 (%) 【保護者：91.9%⇒95.0%】 【児童生徒：90.1%⇒93.0%】
(4)多様な教育的ニーズへの対応の強化	①問題行動・非行への対応、児童生徒指導の充実 ②「性的マイノリティ」とされる児童生徒への対応 ③児童虐待防止対策の推進 ④子供の貧困、ヤングケアラー対策の推進	◆ヤングケアラーの早期発見・早期把握 ◆「つながりが」女性支援事業との連携	●希望の進路に進んだ外国人生徒等の割合 (%) 【100.0%⇒100.0%】 ●「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るく生き生きとした雰囲気である」と回答した保護者、児童生徒の割合 (%) 【保護者：91.9%⇒95.0%】 【児童生徒：90.1%⇒93.0%】
(1)教職員の資質・能力の向上	重①キャリアアップに応じた教職員育成システムの推進 ②授業力、学級経営力の育成 ③先進的教育研究の推進 ④自信と誇りと気概のある教職員の育成	◇キャリアアップを意識した「教員研修計画」による体系的な研修の実施 ◆「宮っ子学びのデザインチーム」による授業力の向上に向けた取組の充実 ・市指定研究学校の活用 ・「宇都宮市教職員表彰」の推進	●教職員は、分ける授業や児童(生徒)にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている」と回答した児童生徒、保護者の割合(%) 【89.7%⇒93.0%】 ●「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」と回答した教職員の割合(%) 【93.1%⇒95.0%】
(2)チーム力の向上	①多様な支援スタッフの配置・活用 ②学校と地域学校園のチーム力を生かすマネジメント力の向上	・医療的ケア支援業務、ICT支援員等、多様な支援スタッフの配置・活用 ◇管理職を対象としたマネジメント研修の充実	●「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」と回答した教職員の割合(%) 【93.1%⇒95.0%】
(3)学校における働き方改革の推進	重①業務の効率化の推進 重②勤務時間の適正化の推進	◆教職員人事管理システムの導入 G ◆web会議システムの活用 G ◆学校デジタル連絡ツールの導入 G ◆校務支援ソフトの機能強化 G ◆部活動の地域移行についての検討 ◆時間外在校等時間の削減	●時間外在校等時間が1か月で80時間を超える教職員の人数(人) ※月平均人数 【212人⇒0人】
(1)全市的な学校運営・教育活動の充実	重①全小・中学校の教育水準の向上 ②地域の教育力を生かした教育システムの推進	◇コミュニティ・スクールの導入についての検討 ・「魅力ある学校づくり地域協議会」との連携推進	●「学校は『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている」と回答した保護者、地域住民の割合(%)【87.0%⇒93.0%】
(2)主体性と独自性を生かした学校経営の推進	①特色ある学校づくりの推進 ②地域学校園を生かした学校運営の推進	・「頑張る学校プロジェクト事業」の推進 ◇地域学校園内共通項目の設定等、PDCAサイクルの充実(園)	●「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」と回答した保護者、地域住民の割合 (%) 【90.8%⇒95.0%】
(3)地域と連携・協働した学校づくりの推進	①家庭・地域とのつながりの強化 重②幼児教育施設と小学校の教職員同士の相互理解の深化 ③企業との連携強化	◆学校デジタル連絡ツールの活用 G ・土曜授業の実施(園) ◆幼児教育施設と小学校の合同研修会の開催 ・学校応援制度等による企業との連携事業の推進	●児童と園児の交流と教職員間の相互理解の活動等を実施している学校の割合 (%) 【50.7%⇒100.0%】
(1)安全で快適な学校施設整備の推進	重①安全で快適な学校づくりの推進 ②地域の防災施設としての環境整備の推進 ③学校のバリアフリー化の推進	・長寿命化改修を基本とした老朽化対策 ◆空調設備の更新・整備 ◆LED化等の省エネルギー化 ◇トイレの洋式化 ・地域の避難所としての防災機能強化 ・スロープの設置による段差解消 ・多目的トイレの設置	●「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」と回答した保護者、地域住民、教職員の割合 (%) 【92.0%⇒95.0%】
(2)学校のデジタル化推進	重①デジタル環境の整備と充実 重②校務のデジタル化推進 ③学校図書館の学習・情報センターとしての機能充実	◆学習用クラウドサービスの活用 G ◆校内高速ネットワーク環境の整備 G ◆教職員人事管理システムの導入 G ◆拡充した統合型校務支援システムの活用 G ・学校図書館の学習・情報センターとしての環境整備	●「コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業(授業準備も含む)を行うための準備ができています」と回答した教職員の割合 (%) 【88.0%⇒93.0%】

第7章 計画の推進にあたって

・指標等を活用して成果と課題を検証し進行管理するとともに、学識経験者や保護者代表を含む様々な立場の方から広く意見を聴く「学校教育推進懇談会」を毎年度開催し、計画の見直しの方向性などを適宜検討。
 ・「小中一貫教育・地域学校園」制度やGIGAスクール構想の実現等、本計画と関係が深い計画や制度と一体的に取り組むを進めることで、計画の実効性を高める。